

# 旅で出あった事件

野口幹夫

これまで生涯の旅は 200 件以上あると思います。家族との旅行が 100 件を超え、自身だけのビジネス出張旅行も 100 回は軽く超え、特に監査役になってからの 8 年は毎月のように監査旅行に行っていました。その中では思いがけない失敗で困ったことはいくつもあります。そのうち印象に残る 2 件を紹介します。

## 1, 初めての欧州出張

東芝に勤めて数年目のこと、ようやく世界はカラーテレビの時代に突入しようとしていました。19 インチのカラーブラウン管を欧州に売り込もうと三井物産が計画したのです。

東芝はまだ自分の販売網を持っておらずやっとな欧州事務所を西独のデュッセルドルフに構えたところでした。



技術的売り込みを担当するのは、わたしが所属したブラウン管技術課でした。その役に私が指名されたのです。私は東芝入社後 1 年足らずで肺結核

にかかり東芝林間病院で2年間過ごしました。その間近くにあった座間のアメリカ軍人の奥さんに来てもらい入院中の若手患者たちに、みっちりと英会話を仕込んでもらっていた経歴が買われたのでした。当時は会社としても初めての経験で、誰に相談することもなく、パスポートを取り旅行計画を立てて19型カラーブラウン管2本を積載重量の超過運賃を払って携行し羽田から出発しました。はじめての派遣のことゆえ、羽田空港には事業部長をはじめ部課長を挙げての見送りでした、大阪から両親も見送ってくれました。エールフランスの大型ジェットで日曜の晩の出発でした。機はバンクーバを経由。オランダのコペンハーゲン経由で、目的地のデュッセルドルフに到着しました。無事到着手続きもして、ゲートに出ると、なぜか閑散としています。重かったカラーブラウン管の2箱もぽつんと置いてあります。にぎやかに迎えてくれる人たちが一人もいないのです。

約束の月曜日の朝の到着のはずが、なんと日曜日の朝についていたのです。時差のことを知らなかったのです。

はじめてのドイツ、誰も知らない飛行場。途方にくれました。幸い公衆電話がありました。電話帳もありました。そこに東芝オフィスを探し出して同期入社の人々の名を発見した時は躍り上がりました。通りかかった親切なドイツ人が、困っている自分を見て、通貨交換と電話機の使い方を教えてくれま

した。友人は日曜日の朝でまだ自宅にいてくれ、驚いて駆けつけてくれて、このピンチは終わったのです。時差をしらなかった自分が、この時の自分だったのです。

## 2、ローマでジプシーの子供集団

それから25年が経ちました。東芝は勤続30年で家族旅行をさせてくれました。子供たちも結婚した直後でした。妻と二人欧州旅行を選択しました。特に就航直後でサービスで安かったエアロフロートのファーストクラスに乗りました、我々の後ろには韓国の国防長官が乗っていてモスクワ空港では赤じゅうたんで軍隊の歓迎式が行われていたのを見ました。

旅はまずローマにつき、ヴァチカン  
を訪問しました。我々二人ともこの  
ころはカトリックの洗礼を受けてい  
ましたが、妻が若いころ四谷やイグ  
ナチオ教会でお近づきのシスターが



多く、そのうちの二人にお目にかかり、普通ではいけないヴァチカンのあちこちを見せていただきました。むろんあのドームの頂上まで行きました。その時にちょっと耳にしたのは当時パリがオリンピックの準備会議か何かで治安を強化し、ジプシーの子供たちを追い払いローマにあつまってきてい

るから用心するよということでした。翌朝ローマ市内を散歩に出たらばらばらと子供の集団が来て囲まれました。一人の女の子が募金箱のようなものを押し付けてきました。これかも知れないと思い振り切って避け、彼らがいなくなってすぐチェックしたら、案の定内ポケットに入れてあった手帳が無くなっているのです。巧妙でそれとわからぬ手技に感心しましたが、困りました。用心して金は持っていなかったのですが、手帳にはこれからの予定や連絡先が書いてあります。彼らには値打ちの無いものだから見つかるかもしれないと警察に届けました。むろん出ませんでした。

羅針盤を失ったような旅になりましたが。幸い妻の記録で何とかこの後の旅行は続けられました。パリで新婚旅行中の息子夫婦にも会い、シャンテーユのイエズス会の本拠地を訪ね、妻の指導神父さんと懐かしの対面をすることもでき、旅は無事に完了したのでした。